



チーム青葉台で

～学校・家庭・地域で支える子どもたち～

校長 木内 絵美

梅雨の合間に青空がのぞく日には、子どもたちは待っていましたと言わんばかりに、元気いっぱい校庭を駆け回っています。1年生が育てている朝顔は蔓をぐんぐん伸ばし、2年生のナスやトマト、ピーマンなどの野菜も実をつけ始めました。日ごとに大きくなる植物の生長を楽しみに、毎朝真っ先に様子を見に行く子どもたちの姿が見られます。

6月13日には土曜参観がありました。暑い中、たくさんの保護者の皆様にご来校いただき、心より感謝申し上げます。

参観が終わった後、保健室をのぞくと、1年生が来室していました。「どうしたの？」と声をかけると「おなかがいなくなっちゃった・・・」と答えてくれました。詳しく話を聴いていくうちに、授業参観に来てくれたおうちの人に頑張っているところを見てもらいたいという思いで、いつも以上に張り切っていたこと、たくさんの大人に囲まれて、かなり緊張していたこと、参観時間が終わったとたん急に緊張が解けてほっとした気持ちになったことなど、その子の気持ちの流れが分かりました。自分の思いを一生懸命伝えてくれる姿を微笑ましく感じると同時に、子どもの思いを深く理解することの難しさも改めて感じました。

学校では、学級担任だけでなく、教科担任や専科指導の教員を含め、多くの教職員で子どもたちにかかわる体制をとっています。授業中、休み時間、行事など、場面によって、また日によって子どもたちは様々な姿を見せます。「今日はこんな意欲的な姿があった」「この場面では少し不安そうだった」などなど、日々放課後の職員室では教職員間で子どもたちの情報が共有されています。担任一人では気付けない子どものよさや些細な変化を全教職員がチームとなって見取りながら指導や支援に生かしています。しかし、学校での姿だけでは、子どもたちの全てを理解することはできません。保護者の方と学校での様子を共有し、保護者の方からも詳しくお話をうかがうことで理解につながる子どもの姿もあります。今後も、学校と家庭とで子どもたちの様子をていねいに共有し合い、学校と家庭と、そして地域が共に子どもを育てていくことを何よりも大切にしていきたいと考えています。

校長室は、いつでも保護者の皆様に関かれた場所でありたいと思っています。お子さんのことで気になることやご相談、ご意見などがありましたら、いつでもお話しにいらしてください。

夏休みまであとひと月を切りました。7月もどうぞよろしくお願いいたします。